

事業報告用

2024年度 事業報告書

特定非営利活動法人 アトピッ子地球の子ネットワーク

1 事業の成果

【食物アレルギー、生活困窮者・貧困支援】

世帯収入の減少、失職、ひとり親家庭などの困難な状況から、食物アレルギーのある子どもの中にも新型コロナ禍以降も経済的な困窮に陥っている人がいます。食物アレルギー用食品は計画生産が徹底されているためかフードバンクやフードパントリーにも出回ることがほとんどないようです。食物アレルギーの子どもが経済的に困窮してもフードバンクや子ども食堂を頼ることができない事例が散見されます。2020年度から引き続き、食物アレルギーの子がいる貧困家庭、ひとり親などを主な対象として、アレルギー用粉ミルク、アレルギー用食品(食料)支援、子ども食堂へのアレルギー食材料提供と情報支援、フードパントリーへの食品供給などをテーマに活動しました。ひとたび貧困に陥った人が、新型コロナ禍が去ったからといってすぐに普通の生活に戻れるわけでもありません。私たちの事業展開も、短期集中から中長期を視野に入れた支援の形を構築しなければならないと感じており、そのためのネットワーク構築と資金調達が大きな課題です。

2 事業の実施に関する事項

(事業費の総費用【11,989】千円)

(1)特定非営利活動に係る事業							
定款に記載された事業名	事業内容	日 時	場 所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(1)アトピー・アレルギー性疾患等に関する相談事業	・相談窓口開設(オンライン) アトピー・アレルギー性疾患のある患者の保護者や当事者などからの相談を受け、相談者に寄り添い暮らし方のアドバイスをした。「正しい答え」を伝えるのではなく、相談者が自身で判断するための伴走者として当法人の相談窓口はある。大規模災害で被災したアレルギー患者・災害弱者、育児放棄や虐待などで親と一緒に暮らすことができない子どもを受け入れる里親・ファミリーホーム、また、企業・団体・行政からの相談も受け付けている。一部オイシックス・ラ・大地(株)及びパルシステム生協連合会協力事業	事前予約制、原則毎週金曜日開設	法人事務所、テレワーク場所	3人	食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などのアトピー・アレルギー性疾患、化学物質過敏症患者、生活困窮者及び一般市民、企業・団体、行政等	40人・団体	330
(2)疾患発症の背景としての環境問題や患者のQOL(生活の質)向上等に関する調査、研究開発及び政策提言事業	・生活困窮しているアレルギー患者家族への聞き取りや動向調査 アレルギー用粉ミルクや食品を送付した患者家族を対象に、状況を把握し支援活動の実際に活用した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	3人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族	200人	347
	・紙おむつ使用感調査 皮膚疾患のある赤ちゃんの紙おむつ調査を実施し生活の質(QOL)と品質の向上を模索した。花王(株)協力事業	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	3人	皮膚疾患のある乳児	150人	
(3)キャンプや食農教育等を外通じた環境教育事業	・(公財)ノエビアグリーン財団助成による野外イベントは「(4)情報提供等事業」に記載した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	15人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族	43人	0
(4)情報誌発行やウェブサイト運営、サイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣等による情報提供事業、人材育成事業	・Webサイト「食物アレルギー危機管理情報(FAICM)」の運営 アレルギー混入事故食品に関する自主回収情報を本サイトにアップ・集約し、サイトに登録した食物アレルギー患者などに案内メールが直接届くWebサイトを運用した。市民と企業による公共知の創造を目指しており、本サイトは食品回収事故のデータベースとして機能している。 *FAICM=Food Allergy Information for Crisis Management	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	6,168
	・ホームページの運用 活動内容の紹介等、広く情報提供を行った。同じくSNSも運用した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(4) 情報誌発行やウェブサイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣・執筆等による情報提供・普及啓発事業、人材育成事業	・「アトピー・アレルギー応援カタログ2024」の発行 アトピー性皮膚炎や食物アレルギー患者の暮らしを応援するために、アトピー性皮膚炎や食物アレルギーに対応した食品や生活用品などを製造・販売する企業の各商品やサービスを一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族に医療機関等から無料配布した。また患者の居る保育園・幼稚園・学校、福祉施設等にも無料配布した。ダウンロードも可能。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	5人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	10,000人	
	・エピペン携帯ケース(Help kit)とレジャーシート(ピクニックシート)の普及 エピペンを子ども自身が持参し自己防衛と危機管理をするための「エピペン携帯ケース」を制作、頒布した。災害時アレルギー患者支援ツールとして食物アレルギーの症状、アナフィラキシー救命の方法、食品表示の見方、食料支援が必要な時の連絡先を印刷した「レジャーシート」を制作、頒布した。 *エピペン:食物アレルギー緊急時治療用自己注射	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	76人	
	・アレルギー対応製品販売協力 アレルギー対応製品を選択せざるをえない患者が安心して商品選定ができるようアレルギーや商品に関わる動向についてリサーチを行った。オイシックス・ラ・大地(株)協力事業	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	協力先の会員、アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族	15,000人	
	・講師派遣 アトピー・アレルギー性疾患についての、患者実態、危機管理、災害救援。子どもや保護者が抱える課題等について、市民、企業・団体・行政・学校等に広く提供した。一部自主企画開催もあった。	4月～3月	依頼者が指定する会場 法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	450人	
	・執筆書籍・発行冊子、依頼された冊子の普及 当法人が執筆した書籍や冊子等の印刷物を普及、頒布した。また、消費者庁より配布依頼のあった同庁制作冊子も配布した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	1,500人	
	・Webサイト「東京子育て・食物アレルギーまっぴんぐ」の運営 食物アレルギーのある子どもを養育する母親自身が都内の身近な場所で経験した「よいこと」を集め、事実確認と情報整理をしながら、広く活用できるホームページを運用した。	4月～3月	法人事務所	3人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	受益 対象者 範囲	受益 対象者 人数	事業費 (千円)
(4) 情報誌発行やウェブサイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣・執筆等による情報提供・普及啓発事業、人材育成事業	・依頼原稿等の執筆 依頼原稿執筆等、広く情報提供を行った。 ・アレルギーの人を対象とした「日帰り!環境教育ピクニック」 食物アレルギーがあることで外食や宿泊行事、野外活動などをほとんど経験したことがない子どもとその家族を対象に、自然体験ピクニックを開催した。(公財)ノエビアグリーン財団助成事業	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	依頼者の運営するホームページ閲覧者等	不特定多数	
(5) 災害時におけるアレルギー患者・災害弱者等の救援及び防災・減災推進事業並びに生活困窮者等支援事業	・アレルギー患者支援ツール「アレルギーシート(ピクニックシート)」の頒布は「(4)情報提供等事業」に記載した。 ・アレルギー患者支援プロジェクト 新型コロナ禍以降、生活困窮している、赤ちゃんのいる家族、子育て中の家族、妊婦、ひとり親、外国籍の人などの暮らしを少しでも応援するために、食物アレルギー用粉ミルクやアレルギー対応食品を無償提供した。食物アレルギーの子も一般の子も同じものを食べるユニバーサルな食事提供を試みる子ども食堂等にアレルギー用の食材料を無償提供した。アレルギー用粉ミルクは消化管アレルギーの子どもにも無償提供した。(公財)日本フィナンソロピック財団、NPO法人いるか(こども家庭庁助成)助成事業	4月～12月	法人事務所、テレワーク場所	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	56人	5,058
	・アレルギー患者支援プロジェクト 新型コロナ禍以降、生活困窮している、赤ちゃんのいる家族、子育て中の家族、妊婦、ひとり親、外国籍の人などの暮らしを少しでも応援するために、食物アレルギー用粉ミルクやアレルギー対応食品を無償提供した。食物アレルギーの子も一般の子も同じものを食べるユニバーサルな食事提供を試みる子ども食堂等にアレルギー用の食材料を無償提供した。アレルギー用粉ミルクは消化管アレルギーの子どもにも無償提供した。(公財)日本フィナンソロピック財団、NPO法人いるか(こども家庭庁助成)助成事業	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	5人	アトピー・アレルギー性疾患患者と生活困窮しているその家族、子ども食堂 災害救援	810人 粉ミルク89人、食品111人、子ども食堂61カ所(610人分)	
	・能登半島地震アレルギー患者・災害弱者支援活動 2024年1月～3月:1型糖尿病患者支援組 日本IDDMネットワークと共同で患者救援ポスターを制作。ホームページ等で救援活動を告知。ボランティアや連携団体が、被災地である七尾市、能登町をはじめ奥能登を中心に同ポスターを配布、配布依頼、掲示、相談窓口開設。また、当法人環境教育プログラムで20年以上に渡り調理と調理指導をしている担当者家族が自宅全壊、救援物資送付や交流の機会を確保した。同救援活動はアレルギー患者救援活動とは区分けして実施した。 2024年度はホームページ等で継続掲示。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	能登半島地震で被災したアレルギー患者・災害弱者	2人	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(6) ケアリーバー(社会的養護経験者)の支援、児童福祉法に基づく自立援助事業	・ケアリーバー(社会的養護経験者)の自立サポートプロジェクトと食料無償提供 児童養護施設や里親・ファミリーホームなどの社会的養護施設を卒業した保護者と一緒に暮らすことができない18～23歳前後の女性達が安心して過ごせる居住スペース(ステップルーム)を提供し、その自立を応援した。居室(個室)を提供し、生活に必要な家電製品やWi-Fiなどの通信環境を整え、居室へのエアコン設置も行った。週数回の夕食と自分で1日3食の食事を作るための食材料を提供。定期的な不安解消のためのサポートも実施。 また、生活困難なケアリーバーに米を含む食料を無償提供した。一部(公財)日本フィランソロピー財団助成事業	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	4人	ケアリーバー及び一般市民	31人	79